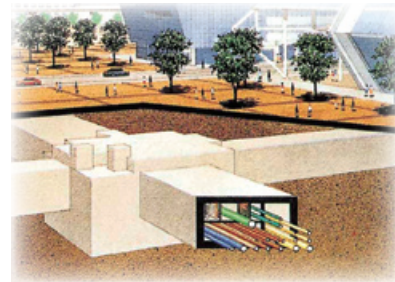
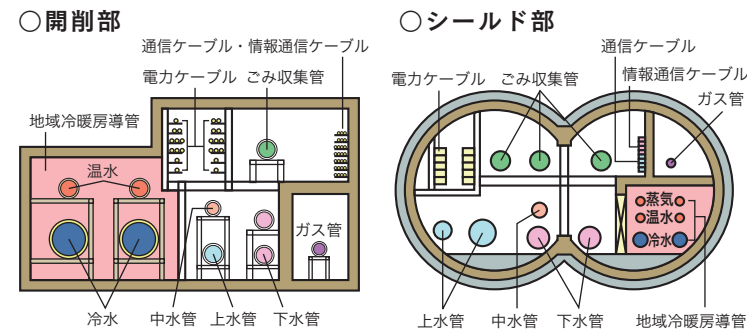


安全で安心なまちづくり

共同溝

道路、公園等の地下空間には、地震などの災害に強い共同溝を整備しています。上下水道・電気・ガス・情報通信などのライフラインを収容する共同溝では、地盤改良による液状化対策を行っています。また、管理は情報通信基盤を利用した共同溝管理システムを活用して、24時間対応で行っています。電柱をなくし、電力ケーブル・ごみ収集などを地中化して都市景観の向上にも貢献しています。



共同溝システムのイメージ図



共同溝管理センター



ごみ収集管



電気・通信・情報通信ケーブル

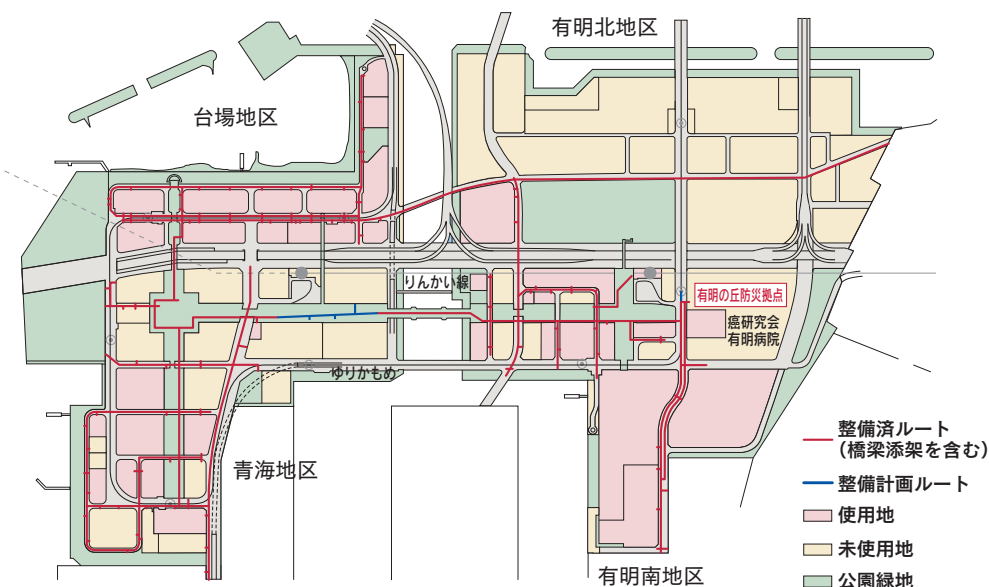


下水管



地域冷暖房用熱供給管

○臨海エリアに整備された共同溝



ゆとりある土地利用計画

公園・緑地やシンボルプロムナード等の多くのオープンスペースは、災害発生時には一時的な避難場所、仮設住宅の建設場所、物資の集積地となります。



シンボルプロムナード

高潮等への対応

臨海副都心を高潮や津波から守るために、防潮護岸の整備や計画地盤高の確保など、「伊勢湾台風」級の台風が襲来したときも被害が出ないように、高潮防潮施設整備を進めています。

防潮護岸は、地震時の安全性に配慮するばかりでなく、可能な限り親水性の高い構造とし、護岸背後にはオープンスペースを設け、人々が自由に散歩できる空間を確保しています。

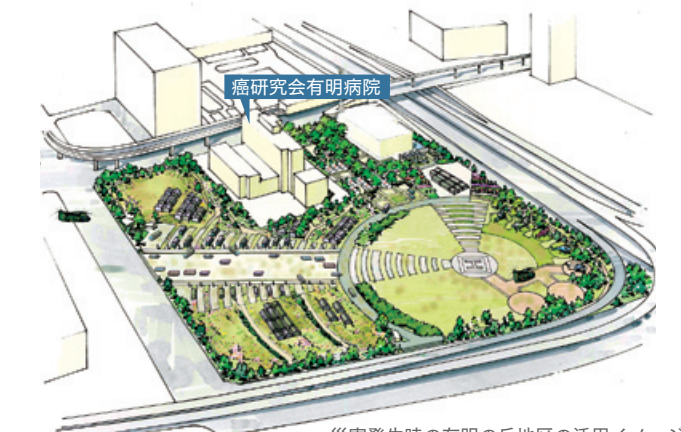


防潮護岸

有明の丘防災拠点

「有明の丘」は、地震などの災害が発生した場合には、隣接する港湾機能などを活用して、臨海副都心はもとより、広域的な災害対策活動の支援基地としての重要な機能を担うことになっています。

また、平常時には、人々の憩いの空間となる緑豊かな公園として利用される予定です。



災害発生時の有明の丘地区の活用イメージ

建築物の安全対策

建築物は全て耐火構造で、液状化対策などの耐震対策も実施しています。大規模な延焼火災のおそれがなく、広域的な避難を要しない地区であるため、臨海副都心は地区内残留地区となっています。